



# 「核か過疎か」 に物申す！

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

<http://kakugomi.no.coocan.jp/>

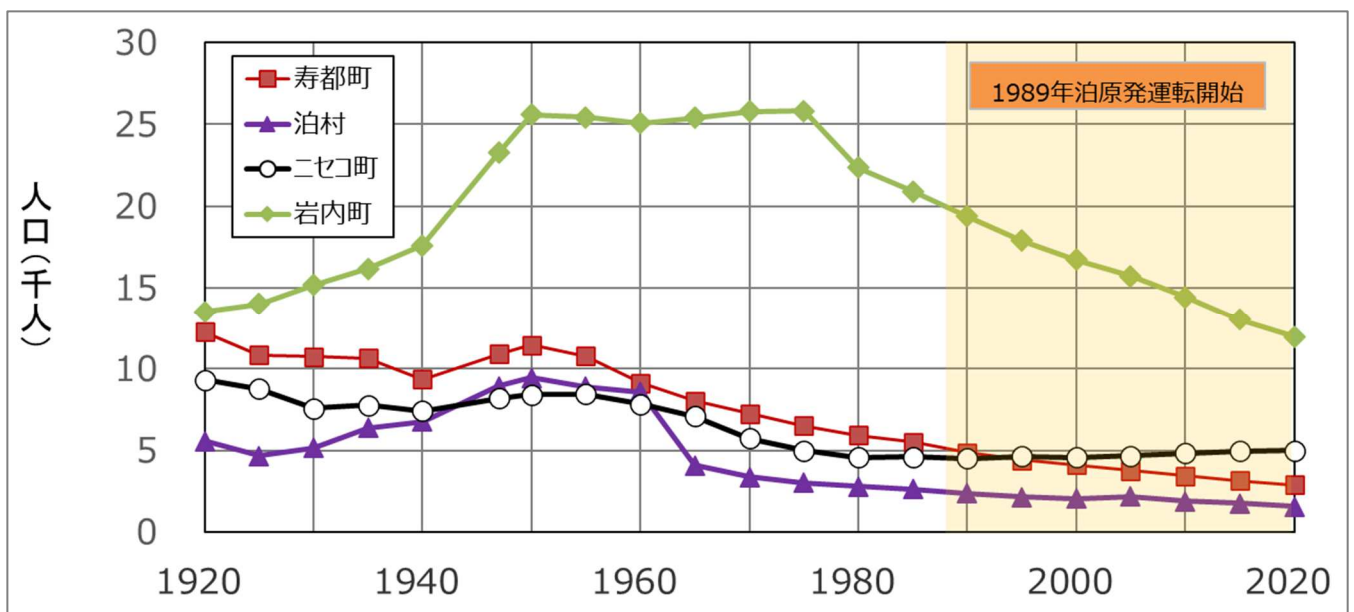
<https://www.facebook.com/106569234530018/>



No.23 2021年4月13日発行

## 【「核を取れば、過疎は避けられる」に根拠なし】

寿都の核のゴミ問題について、テレビ局が「過疎を取るか 核を取るか」といったタイトルを掲げた番組を作っています。町内でも、「過疎を避けるためには、核を受け入れるしかない」という声を耳にします。本当に、核を受け入れたら、過疎は避けられるのか？ 身近な泊村と岩内町のデータをみてみましょう。



泊村は1960年頃まで8000人以上の人口がありましたが、1989年に原発が運転開始されても、人口減少は止まらず、2020年には1561人にまで減っています。岩内町も、1990年に1万9372人の人口がありましたが、2020年には1万982人にまで減っています。一方で、核など受け入れていないニセコ町が人口減少を食い止めていることは注目に値します。

「核を取れば、過疎は避けられる」は誤りです。なのに、報道機関が扇情的な「過疎を取るか 核を取るか」と名付けた番組を作るのはいかがなものでしょうか。私たち寿都町民は、視聴率狙いの一部報道機関に踊らされていてはいけません。核と過疎は二者択一を迫られるようなものではないのです。核など受け入れずに人口を増やしているニセコ町をお手本にして、核なしで生きていく方法を探るべきなのです。

## 【2018年春から片岡町長は文献調査を検討】

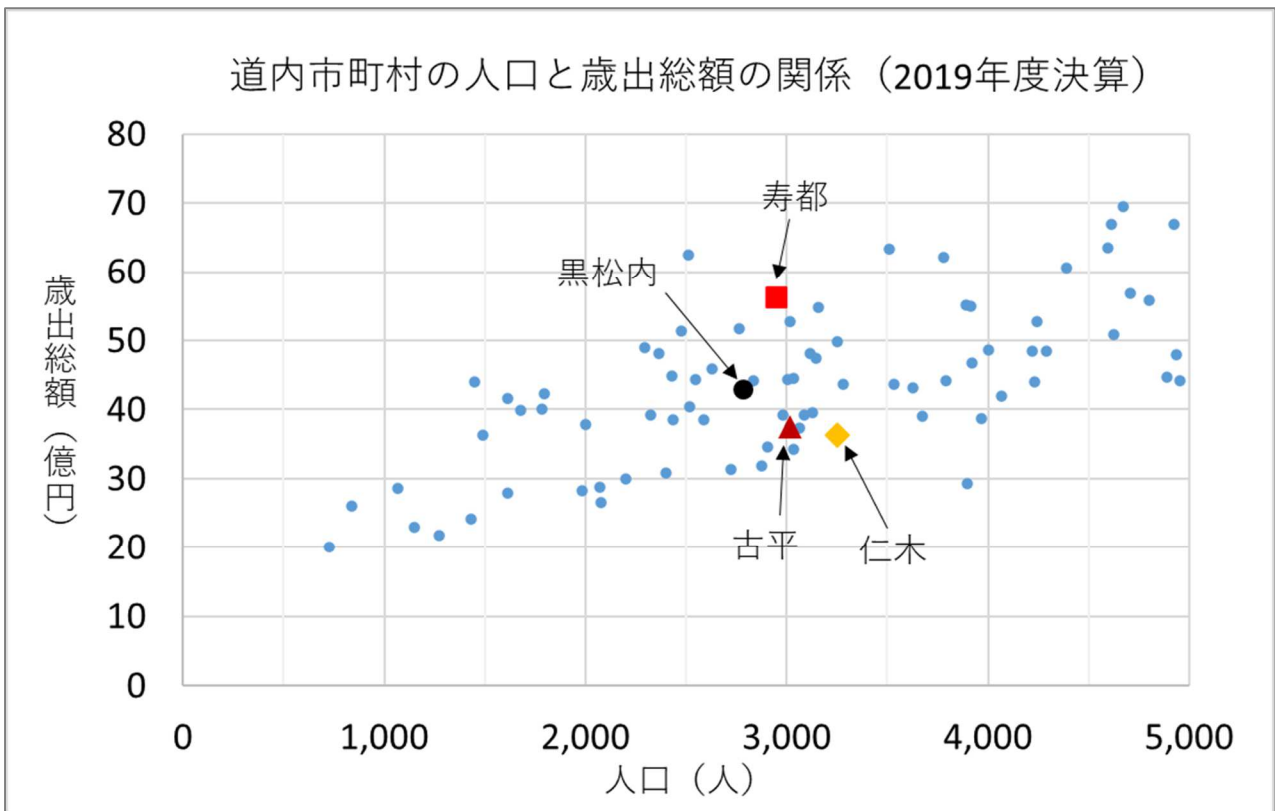
4月4日の北海道新聞朝刊一面の記事をご覧になりましたか？

片岡町長は核のゴミ処分場の調査について、2018年9月の胆振東部地震を受けて地盤調査に必要な財源を探す過程で思ったと説明してきました。しかし、じつは、地震の約半年前の2018年4月4日の異業種懇談会において、応募について説明していたと道新がスクープしました。その会合では、1人が強く反対し、議論は打ち切りになったといいます。道新記者から確認を求められた片岡町長は「記憶にない」と話したそうですが、記憶にないというのは覚えていないだけで、明確に否定していないのですから、そのように発言していたかもということですよ。政府答弁を真似しているのでしょうか。



## 【寿都町の歳出を他市町村と比べると…】

寿都町の予算は、身の丈にあっていません。道内市町村の歳出総額と人口の関係を示した以下のグラフをご覧ください（2019年度）。



人口 3000 人程度の自治体の歳出は、おおよそ 30 億円台から 40 億円台となっているのに対して、寿都は 50 億円を突破しています。後志管内の黒松内町、古平町、仁木町などは寿都と似たような人口規模ですが、いずれも寿都よりも歳出は小さいです（寿都 56 億円、黒松内 43 億円、古平 38 億円、仁木 36 億円）。文献調査で一年あたり 10 億円が得られるといいますが、寿都より 10 億円少ない歳出でやりくりしている自治体も多いのです。

つぎに、後志管内のうち、人口 2000~4000 人の 8 町村の歳出（2019 年度）を、人口一人あたりとして、

ランキングをつけてみました。似たような人口規模の町村であるにもかかわらず、1位の寿都町は、一人あたり191万2千円、たいして8位の仁木町は一人あたり111万9千円と大きな差があります。

我が町には、約10億円ものふるさと納税があります。それ自体は誇るべきことですが、それに甘えて、いいかげんな財政運営をしてきたのではないのでしょうか。人口規模が同じような町村に比べて過大な予算を組み、それが行き詰まりそうだからといって、核のゴミの文献調査に応募することは許されません。  
まずは、予算が適正なものかどうか見つめ直すことから始めなくてははいけません。

順位	町村	人口	一人あたりの歳出(千円)
1	寿都町	2948	1912
2	黒松内町	2784	1541
3	留寿都村	2070	1388
4	喜茂別町	2201	1365
5	京極町	2979	1319
6	真狩村	2079	1273
7	古平町	3015	1245
8	仁木町	3251	1119

## 【「核ゴミ問題を考える北海道会議」の皆さんが来町】



核のゴミの最終処分場について、北海道全体の問題として広く議論しようという市民団体「核ゴミ問題を考える北海道会議」の皆さんが4月4日に寿都町にお越しになりました。北海道会議側の事務局長の川原茂雄札幌学院大教授、事務局次長の角田貴美さん、市川守弘弁護士らが、今後、自治体行政に関する勉強会などの協力を約束してくださいました。道内の自治体と比べると、寿都町は文献調査への応募以前に、お金の使い方がおかしい、ということ、皆さん口々に指摘されていました。

寿都町民の生の声が聞けて良かったともおっしゃっていただきました。北海道会議は全道各地でフォーラムを行う予定ですが、その第一回は寿都でということになりました。

## 【寿都の守り神、月越の大ミズナラ】

あまり知られていませんが、寿都の山にはミズナラの巨木があります。その幹の太さは約7メートル！！北海道にあるミズナラでは一番太いクラスの木だそうです。黒松内ぶなの森自然学校の方に企画していただき、町民の会など、寿都町の有志がそのミズナラの巨木に会いに行ってきました。

巨木への道は整備されているわけではなく、暖かくなるとネマガリダケが生い茂って近づくのが困難になるので、残雪の残るこの時期を狙って行くことになりました。



スノーシューを履いて歩くこと約10分(中にはこっちのほうが早いと転がってる人もいました)。遠くからでも、「あーっ！」と声をあげたくなるような巨木が見えてきました。

実際に目の前に立つと、その存在感に圧倒されます。思わず、「本当にミズナラですか？」と聞きたくなるぐらい。何百年も前から今もずっと、ここから寿都を見守ってくれていたんだなと思うと、感謝せずにはいられませんでした。

参加者からは「ずっとここにいれそう」と感想が出るほどの安心感があり、たくさんパワーをいただいて帰ってきました。実際に見て、この木のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思い、と同時に、この環境をきちんと守っていかないといけないと思いました。

## 【『寿都人プロジェクト』 みなとま〜れでも開始】

寿都人のみなさん、お待たせしました！

漫画家、本庄敬さんと仲間の皆さんによる『寿都人プロジェクト』のオリジナルTシャツが、道の駅みなとま〜れ寿都でも販売開始となりました。【白地×カラーロゴ】のオフィシャルTに加えて、【カラー×白抜きロゴ】のTシャツも届きました。

風太くんがデザインされたマスキングテープも新登場しています。こちらも使い勝手のよいデザインに仕上げてくださいました！子どもたちにも使ってほしいなー。お買い求めは、みなとま〜れへぜひどうぞ。



## 【映画上映 ぜひお越しください】

前号のチラシでもお知らせしましたが、映画「地球で最も安全な場所を探して」の上映会を行います。いま全国各地の映画館で上映されている話題作です。

この映画は、地層処分推進の世界的な権威である原子物理学者が「世界一安全な場所」を探して地球上を旅し、専門家や、地層処分に賛成あるいは反対する自治体の首長、住民などに関わりあう様子を実写したドキュメンタリーです。地層処分事業に反対するための映画ではなく、むしろ、それを最も強く推進しようとしている専門家の目線に立って映画がつけられている点が、世界で高く評価されています。町長や議員の皆さん、NUMOの皆さんもご招待しました。

なお、コロナ下での開催となりますので、消毒・検温・名簿記入、間隔を空けての座席提供などの対策を取っております。

日時：4月23日（金）18時～開場／18時半～ミニ講演会／19時～上映  
場所：寿都町総合文化センター（ウィズコム）大ホール  
料金：無料

